

リツキサン治療を受ける患者さんとお家族へ

特発性血小板減少性 紫斑病 (ITP) BOOK

監修 埼玉医科大学病院 総合診療内科・血栓止血センター 教授
宮川 義隆



Contents

- 1 特発性血小板減少性紫斑病(I TP)とは** 3
- I TPとは血小板が減少する病気
 - 慢性型は成人女性に多くみられます
- 2 I TPの症状と診断** 4
- 出血によりさまざまな症状があらわれます
 - 他の病気でないことを確認することが必要
- 3 I TPの特徴** 5
- I TPの発症には免疫の異常がかかっています
- 4 慢性I TPの治療** 6
- 血小板数3万/ μ L以上で出血がない状態を目指します
 - 慢性I TPの治療
- 5 リツキサンによる慢性I TPの治療** 7
- リツキサンとは
- 6 Q & A** 8
- Q1. リツキサンによる治療はどのように行われますか？
- Q2. 日常生活を送るうえで、注意点はありますか？
- 7 治療の注意点** 9
- リツキサンを投与する際に注意していただきたいこと
 - リツキサン投与を受けた方の日常生活での注意点
 - その他、覚えておいていただきたいこと
-  **心当たりのある方は、あらかじめ医師に** 裏表紙
相談してください

ITPとは血小板が減少する病気

“とくはつせい・けっしょうばん・げんしょうせい・しはんびょう”。

難しい病名を聞いて、驚かれたかもしれません。とても長い名前なので、ここではITP(アイ・ティー・ピー)と呼びます。

ITPは、血液の成分のうち血小板と呼ばれる細胞が減少する病気、国の難病に指定されています。“特発性”というのは、原因となる病気がない、またはわからない場合につけられます。またこの病気になると出血しやすくなり、皮膚に内出血による紫色の斑点が出るので“紫斑病”と呼ばれています。

慢性型は成人女性に多くみられます

ITPは、急性型と慢性型とに分けられます。急性型は小児に多く、感染症や予防接種のあとなどに突然起こることがあります。多くは6ヵ月以内に回復しますが、慢性型に移行する人もいます。一方慢性型は成人、特に女性に多く、6ヵ月以上血小板の減少が続きます。最近では、12ヵ月以上持続する場合を慢性型と呼ぶこともあります。

日本国内のITP患者さんは約2万人で、毎年、新たに3,000人ほどが発症します。

急性ITPと慢性ITP

	急性ITP	慢性ITP
起こりやすい年齢	2~5歳	20~40歳、60~80歳
男:女	1:1	1:2~3
起こり方	ウイルス感染や予防接種、胃腸炎などのあとに突然起こることが多い	いつ起こったかははっきりしない
出血症状	強い	症状がない場合もある
経過	6ヵ月以内に治癒する	長期間続く

【参考】富山佳昭:最新ガイドライン準拠 血液疾患 診断・治療指針.中山書店,2015,498-504p

出血によりさまざまな症状があらわれます

血小板は、血液を固める働きがあります。出血した時、しばらくするとカサブタができて出血が止まるのは、血小板の働きです。血小板が少なくなるITPでは、出血しやすくなったり、いったん出血すると止まりにくくなります。主な自覚症状としては、次のようなものがあります。

- 皮下出血のあとがあらわれる
- 歯ぐきから出血しやすくなる
- 鼻血が出やすく、止まりにくい
- 女性は月経過多になりやすい
- 尿や便に血液が混じる
- 重症の場合は脳出血が起こることがある

このようにITPでは、皮膚や粘膜の出血が中心にあらわれます。

他の病気でないことを確認することが必要

ITPの診断は、以下の点をすべて満たしたときに確定します。

- **血小板数が10万/ μ L以下**
採血して、血液中の血小板数を計測し、血小板が減っていることを確認します。なお血小板数の正常値は15万～40万/ μ Lです。
- **白血球、赤血球の数と形に異常がない**
血液検査で、異常な形の赤血球がみられたり、白血球の数が減少している場合は、他の病気を疑います。
- **血小板が少なくなる他の病気ではないことが確認できた**
血小板を減少させる病気やお薬がいくつかありますので、他の原因による血小板減少ではないことを確認します。

【参考】藤村欣吾：看護のための最新医学講座[第2版]9血液・造血器疾患。中山書店、2006、290-301p

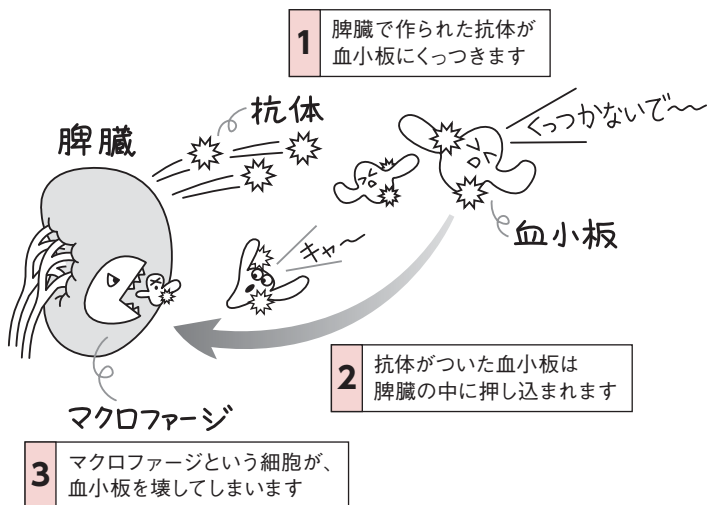
ITPの発症には免疫の異常がかかわっています

血小板が減少する病気には、血小板の産生が減る病気と、破壊が亢進する病気とがあり、ITPは、血小板の破壊が亢進するタイプです。なぜ血小板が破壊されるのか、詳しい原因はわかっていませんが、免疫の異常が関係していると考えられています。

免疫は、ウイルスなどの敵を攻撃する際、「抗体」と呼ばれる武器を使います。慢性ITPでは、免疫の異常により血小板を攻撃するための抗体が作られ、血小板を破壊します。その結果、血小板が減少してしまうのです。

最近では、血小板の産生が低下していることも原因のひとつとして考えられています。

ITPが起こる仕組み



血小板数3万/ μ L以上で出血がない状態を目指します

血小板数が3万/ μ L以下になると出血が起こりやすくなりますので、治療では、血小板数3万/ μ L以上で出血がない状態を目指します。血小板数が3万/ μ L以上の方は出血の危険は少ないため、特別な治療はせずに注意深く経過をみていきます。

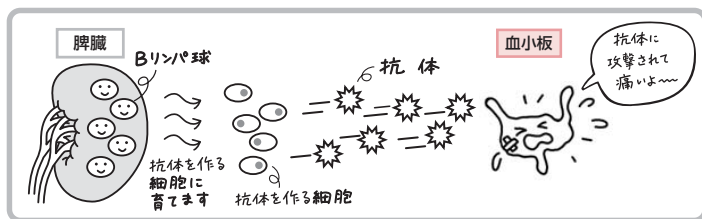
慢性ITPの治療

治療方法	特徴・治療内容
ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌	<ul style="list-style-type: none"> ITP診断後、ヘリコバクター・ピロリ菌に感染しているかどうかを確認 抗生物質と胃薬で1週間除菌すると、半数ほどの方は血小板が回復する
副腎皮質ステロイド療法	<ul style="list-style-type: none"> 抗体の産生やマクロファージによる血小板の破壊を抑える目的で行われる 薬を止めると、せっかく回復した血小板数が元に戻ってしまうこともある 少量を長期にわたり飲み続けなければならない場合もある
リツキサ治療法	<ul style="list-style-type: none"> Bリンパ球に作用して抗体を減らすことにより、血小板を増やすお薬(詳細についてはP7参照)
トロンボポエチン受容体作動薬	<ul style="list-style-type: none"> 血小板を産生する「トロンボポエチン」という血液中のたんぱく質に代わり、血小板を増やすお薬 経口剤と注射剤があり、どちらも治療を継続する必要がある
脾臓摘出	<ul style="list-style-type: none"> 脾臓を摘出するための手術 最近では腹腔鏡手術という、からだに負担の少ない方法で脾臓を摘出できるようになり、入院期間が短くてすむようになった

5 リツキサンによる慢性ITPの治療

リツキサンとは

リツキサンは、分子標的薬と呼ばれるお薬のひとつです。分子標的薬は特定の細胞などに結合するように設計されており、リツキサンはBリンパ球にあるCD20というたんぱく質に結合します。リツキサンが結合することで抗体作りにかかわっているBリンパ球が排除され、その結果、抗体が作られにくくなります。



リツキサンを投与すると…



次のような方はリツキサンによる治療が受けられます

- 副腎皮質ステロイド治療が効かない患者さん
- 副腎皮質ステロイド治療の副作用にお困りの患者さん
- 脾臓摘出術を受けられない患者さん、もしくは手術を望まない患者さん
- 脾臓摘出が無効な患者さん

Q1 リツキサンによる治療はどのように行われますか？

A 週1回、4週にわたって点滴を行います。

- 初回の投与は、原則として入院して行います。
- リツキサン投与前に、副作用を防ぐためのお薬を使います。
- 腕の静脈に注射針を刺して点滴を行います。
- 初回の投与は、2～8時間ほどかかります。
- 4週間の治療期間中と終了後しばらくは、血小板数を測定します。

Q2 日常生活を送るうえで、注意点はありますか？

A 出血やあざなどには注意が必要です。

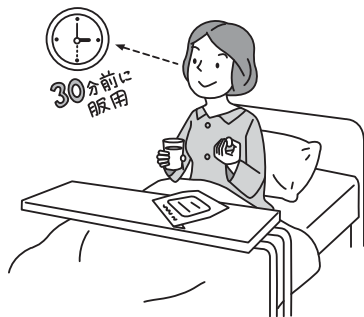
- 風邪などの感染をきっかけとして、出血症状が出てくる場合があります。このような場合はすぐ医師に連絡してください。
- 普段からご自分の皮膚や口の中などをよく観察し、出血やあざなどがないか確認する習慣をつけましょう。
- 歯の治療など、他科で検査や治療を受ける場合は、ご自身がITPであることを医師に伝えてください。
- 鎮痛剤や解熱剤を飲むと出血しやすくなることもあるので、医師・看護師・薬剤師にご相談ください。



リツキサンを投与する際に注意していただきたいこと

点滴前

- 点滴前の飲食などに特に制限はありません。
- 点滴する30分程前に、副作用を軽くするためのお薬を服用していただけます。



点滴中～点滴後

- 静脈に注射針を刺して、そこからリツキサンを点滴します。
- 点滴中や点滴終了後：アレルギー様反応を予防する薬により、めまいや眠気を生じることがあります。
- 点滴の速さは、ゆっくりと開始して、時間とともにだんだん速くしていきます。リツキサンの点滴開始直後や点滴速度を上げた後に、次のような症状があらわれる傾向があります。

主な副作用

- | | | |
|----------|---------|----------|
| ○ 発熱 | ○ 頻脈・動悸 | ○ 血管浮腫 |
| ○ 頭痛 | ○ かゆみ | ○ 悪心 |
| ○ 咳・呼吸困難 | ○ 悪寒 | ○ 発疹 …など |
| ○ 虚脱感 | ○ ほてり | |

7. 治療の注意点

リツキサン投与を受けた方の 日常生活での注意点

毎日の生活の中でも注意していただきたいことがあります。
治療が終了した後にも、副作用があらわれることがあります。
そのような場合には、担当の医師にご連絡ください。

気になる症状があらわれたり、
何か異常を感じた場合には、
医師・看護師・薬剤師に
ご連絡・ご相談ください。



■ その他、覚えておいていただきたいこと

初めてリツキサンの治療を行う日は、副作用に注意しながら慎重に治療を行うため時間がかかります。また、副作用の出かたを入念にチェックする必要から、原則入院していただきます。



MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....





心当たりのある方は、あらかじめ医師に相談してください

● 肝炎にかかっている方、かかったことのある方へ

リツキサンによる治療で、ウイルス性肝炎が悪化したり、再発することがあります。悪化や再発の危険性を下げるために、定期的に肝炎ウイルスの検査を行うことが推奨されています。肝炎にかかっている方、または過去に肝炎にかかったことのある方は、あらかじめそのことを医師にお伝えください。

● 心臓や肺の病気をしたことがある方、感染症にかかっている方へ

心臓や肺に病気のある方、感染症にかかっている方は、リツキサンの投与がこれらの病気に影響を与える場合があります。これらの方は、リツキサンによる治療を受ける前に医師にお伝えください。

● リツキサン治療後に発熱した方へ

リツキサンによる治療後にBリンパ球が回復するまでの数ヶ月のあいだに、10%程度の患者さんにおいて、細菌感染から身を守るうえで重要な好中球という白血球が減少するという副作用が発生することが知られています。好中球減少時には感染症が重症化する恐れがありますので、リツキサン治療後に発熱した方は、医師にお伝えください。

● 最近ワクチンを接種した方、今後接種予定のある方へ

リツキサンによる治療で、ワクチンを接種しても期待する予防効果が得られなかったり、予防すべき感染症にかかったりする恐れがありますので、最近ワクチンを接種された方や今後接種の予定がある方は、あらかじめそのことを医師にお伝えください。

特に、生ワクチンを接種される場合は、接種したワクチンが原因となり感染症が発症する可能性がありますので、接種する前に医師に相談してください。

また、これまでの予防接種歴につきましても、医師にお伝えください。

● リツキサンの製造に関する注意

このお薬は遺伝子を組み換えた細胞を培養して作られています。この細胞を作る際に、カナダ、米国またはニュージーランド産を含むウシの血清由来成分を使用していますが、これらは一定の安全性が確保される目安に達していることを確認しています。しかしながら、伝達性海綿状脳症(TSE)の伝播の危険性を完全に否定しきることはできません。なお、これまでに、このお薬によってTSEがヒトに伝播したという報告はありません。

医療機関名：

担当医師名：